

第 2 期 新潟市地球温暖化対策実行計画（地域推進版）の進捗状況について

1. 計画期間と目標

計画期間：2013 年度から 2018 年度

短期目標：2018 年度までに市域から排出される二酸化炭素を 2005 年度比 15%削減

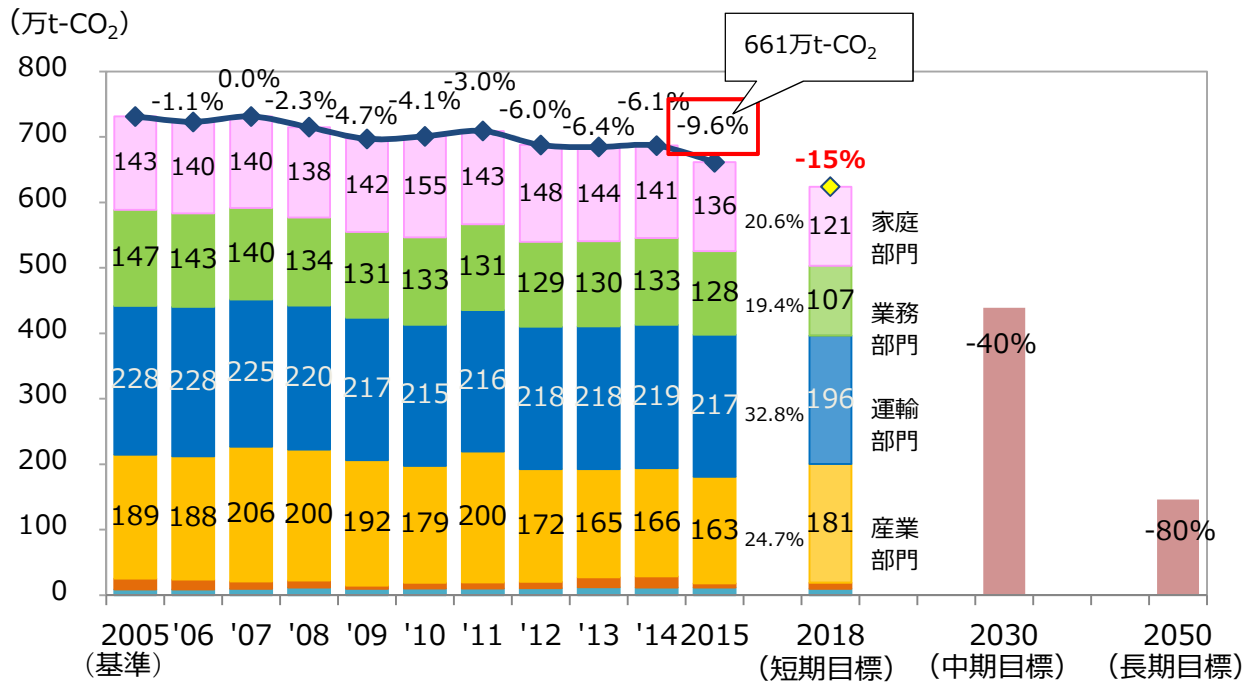
中期目標：2030 年度までに市域から排出される二酸化炭素を 2005 年度比 40%削減

長期目標：2050 年度までに市域から排出される二酸化炭素を 2005 年度比 80%削減

2. 計画の進捗状況

2-1 市域の CO₂ 排出量

- 新潟市域からの二酸化炭素排出量は、直近の確報値である 2015 年度で 661 万 t。
- 基準年とする 2005 年度に比べて 9.6%減となっている。
- 減少傾向にはあるが、目標とする 2018 年度に 15%削減にはまだ遠い状況。



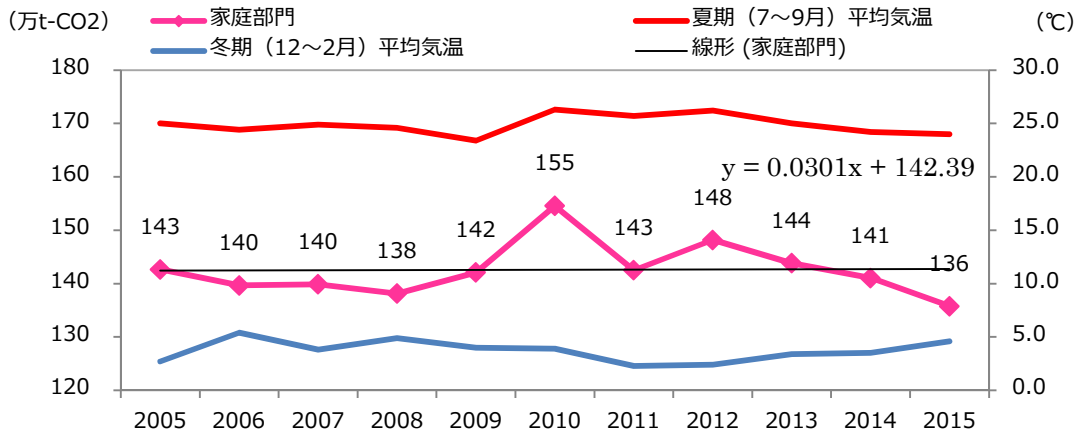
【図2-1】市域の二酸化炭素排出量の推移（2005～2015年度）

2-2 部門別 CO₂ 排出量

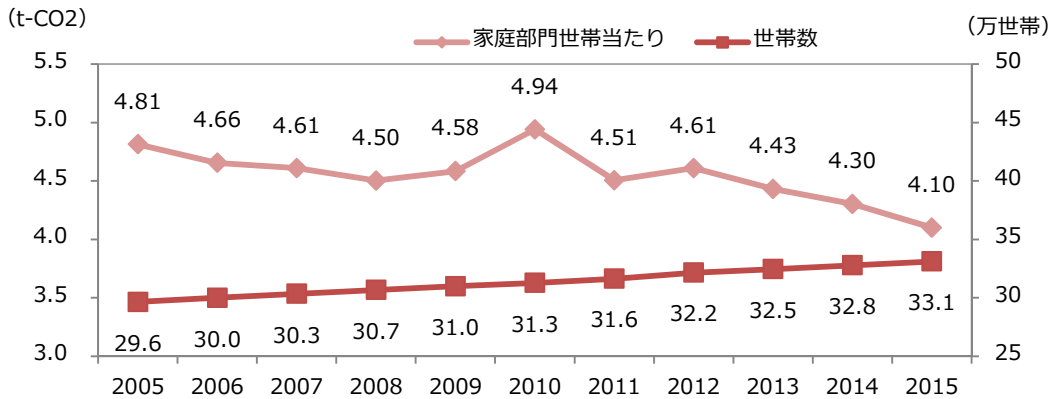
<家庭部門>

- 家庭部門は気候の状況に影響を受けやすく、増減はあるがほぼ横ばい。
- 本市の世帯数は継続して増加しており、世帯当たりの排出量は減少傾向である。
- 本市の世帯当たり CO₂ 排出量は全国平均に比べて高くなっている。

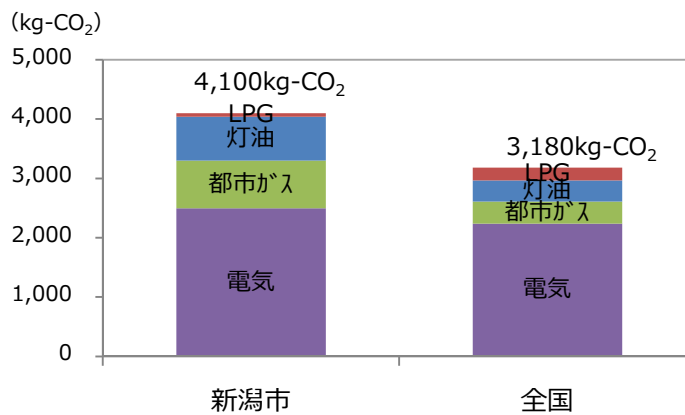
(2015 年度値で比較 本市は全国平均の約 1.3 倍)



【図2-2】 家庭部門CO₂排出量と平均気温の推移



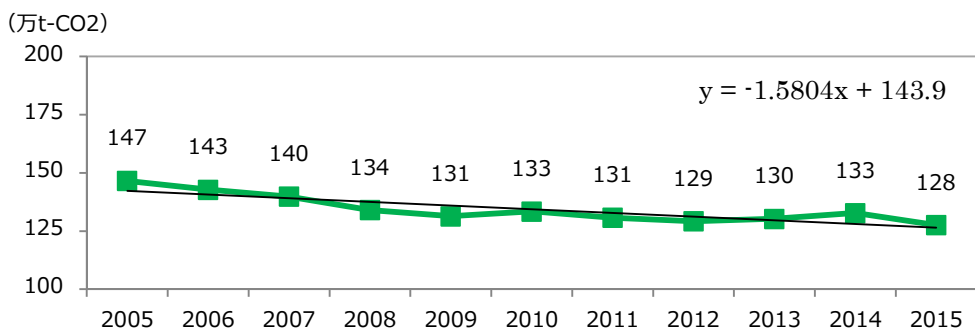
【図2-3】 家庭部門世帯当たりCO₂排出量と世帯数の推移



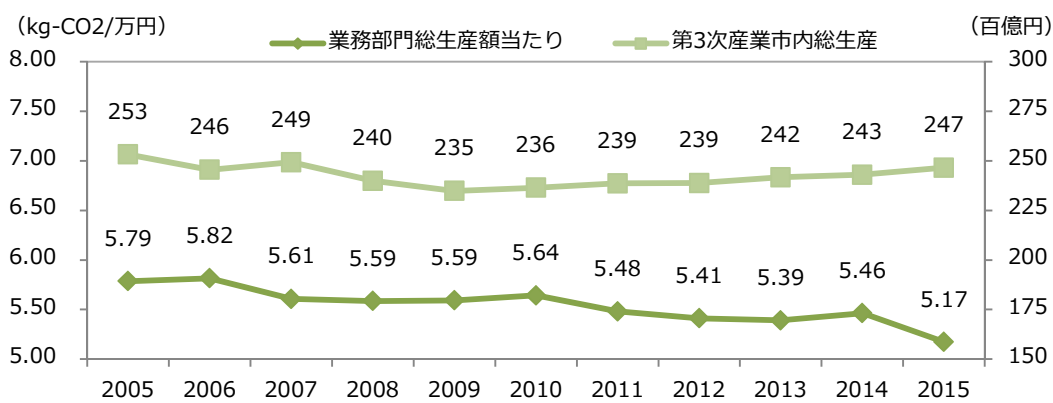
【図2-4】 家庭部門世帯当たりCO₂排出量

<業務部門>

- 業務部門は、排出量も第3次産業市内総生産額当たりの排出量も減少傾向にある。



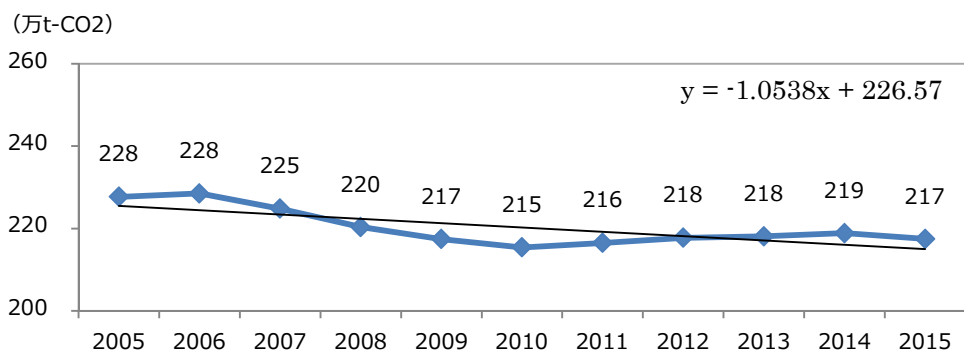
【図2-5】業務部門CO₂排出量の推移



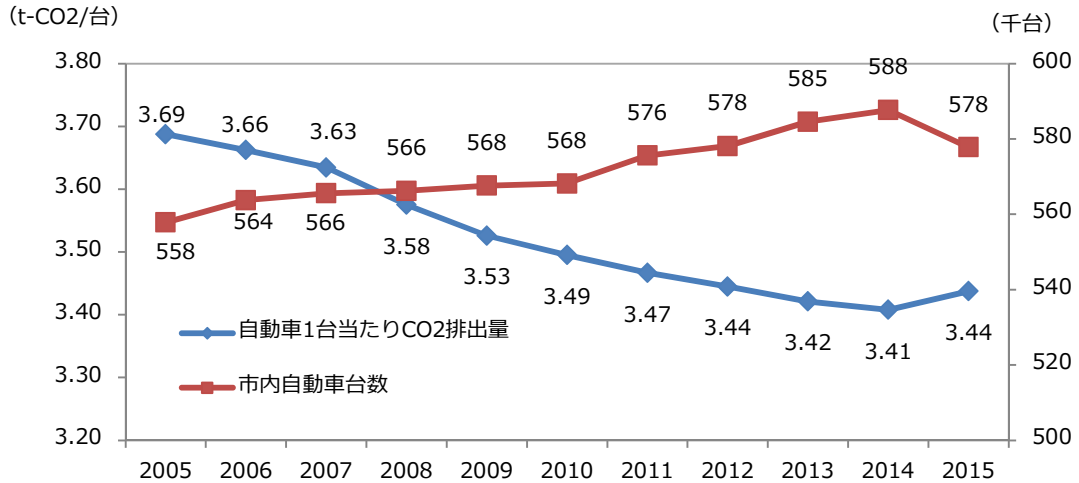
【図2-6】業務部門市内総生産額当たりCO₂排出量と
第3次産業市内総生産額の推移

<運輸部門>

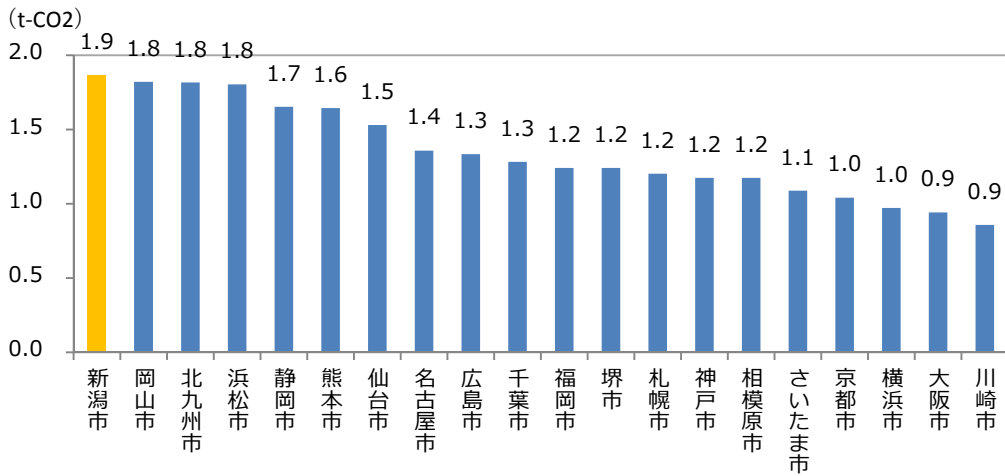
- 運輸部門が最も排出割合が高く、全体の排出量の約3割を占める。
- 運輸部門の排出量のうち9割が自動車による排出。(残りは鉄道、船舶、航空)
- 排出量は概ね減少傾向。
- 自動車台数当たりでは年々減少している。
- 運輸部門の排出量を人口一人当たりで比較すると政令市で本市が最も多い。(2015年度)



【図2-7】運輸部門CO₂排出量の推移



【図2-8】自動車1台当たりのCO₂排出量と市内の自動車台数の推移

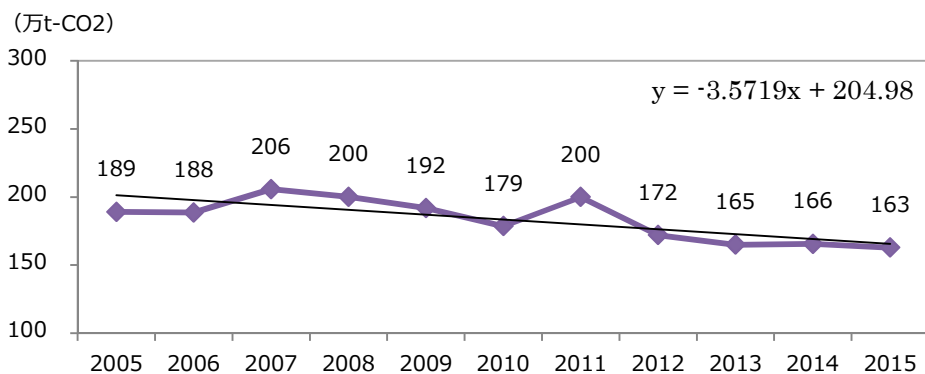


【図2-9】人口一人当たり運輸部門CO₂排出量

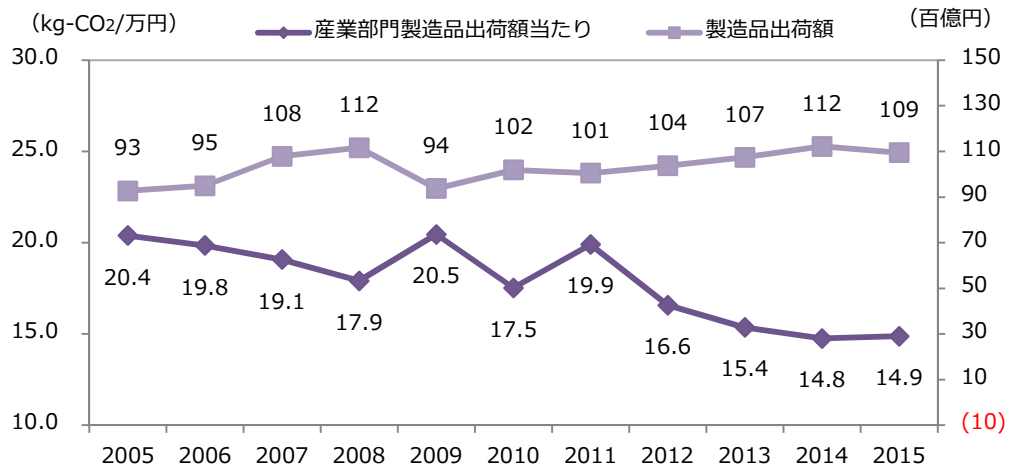
※（環境省）「簡易マニュアルによる推計2015」よりデータを抜粋し新潟市で作成

<産業部門>

- 産業部門は減少しており、2018年度の目標目安排出量を下回っている唯一の部門である。
- 製造品出荷額当たりの排出量も減少傾向。



【図2-10】産業部門CO₂排出量の推移



【図2-11】 産業部門製造品出荷額当たりCO2排出量と
製造品出荷額の推移

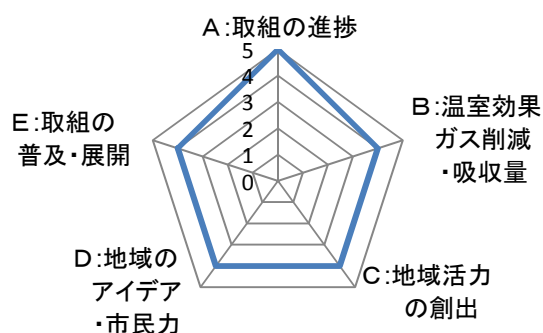
2-3 施策の進捗（主な数値指標の進捗状況）※2018年度の進捗状況は現在とりまとめ中

方針	指標（2010年度からの増減）	2018年度 目標	2017年度		
			指標の結果	CO ₂ 削減量	評価※2
① 田園環境の保全・ 持続可能な利用	木質バイオマスを加温熱源とする 園芸施設の増加面積	600 m ²	389 m ²	36t	×
	廃食用油の回収・利活用増加量	110kL	87kL	19t	×
	もみ殻・海岸林ペレットの製造・利 活用増加量	100t	8t	81t	×
	農業用施設における太陽光発電に よるC重油削減量	210kL	238kL	709t	○
② スマートエネルギーシティの構築	メガソーラーの設置増加容量	60MW	69MW	36,630t	○
	事業所の太陽光発電増加容量	119MW	155MW	76t	○
	LED 防犯灯補助増加件数	62,000 灯	56,324 灯	1,258t	△
	公共用太陽光発電設備発電増加量	500MWh	1,022MWh	501t	○
	太陽光発電補助増加件数	2,500 件	2,771 件	5,301t	○
	廃棄物発電増加量	27,000MWh	41,231MWh	16,603t	○
	下水道消化ガス発電増加量	4,500MWh	3,819MWh	1,948t	△
③ 低炭素型 交通への転換	1日あたり自動車総トリップ数削 減率	2.5%減	2.6%増	—	×
	シニア半割参加者増加数※1	—	35,094 人	115t	○
	EV 導入増加台数※1	—	692 台	884t	○
④ 低炭素型 ライフスタイルへの転換	環境家計簿参加者（省エネキャンペ ーン応募者）増加世帯数	4,000 世帯	3,218 世帯	129t	△
	廃プラスチック焼却削減量	1,900t	2,758t	7,625t	○
	自転車走行空間整備延伸距離	48km	64km	643t	○
	駐輪場収容増加台数	6,100 台	6,280 台	1.3t	○
	率先実行計画による市の CO ₂ 削減 量（廃プラスチック焼却分除く）	15,506t	26,396t	26,396t	○

※1 計画策定後に追加した指標

※2 評価の基準 ○：目標を上回っている △：目標の8割に達している ×：目標の8割に達していない

2-4 環境モデル都市フォローアップの評価



（委員コメント）

- ・低炭素化について、実質的に成果が上がっており、高く評価される。
- ・全体として、バランスのとれた取り組みを背局的に展開している。
- ・特に、農業関連部門において資源循環システムを普及拡大段階へ推進させているのは注目すべき効果と言え、さらなる展開が期待される。